

# 「環八郎湖・水の郷創出プロジェクト」について

秋田地域振興局 総務企画部地域企画課

藤原 貴晃

## 1. はじめに

秋田地域振興局では、八郎湖の環境保全に向けた取組として「環八郎湖・水の郷創出プロジェクト」を推進しております。

「環八郎湖・水の郷創出プロジェクト」とは、平成15年度から秋田地域振興局が音頭をとって実施している「八郎湖を支えるプラットフォームづくり」を目指した活動であり、

- ・「自然再生活動の促進」
- ・「環境教育などによる未来の人・地域づくり」
- ・「多様な主体との協働とネットワーク化」

の3つを柱とした取組であります。

ここでは、「環八郎湖・水の郷創出プロジェクト」のこれまでの成果や、地域住民団体の活動状況、平成26年度の実施方針等についてご紹介させていただきますこととします。

## 2. プロジェクト立ち上げの背景

八郎湖の汚れの主な原因は、農業排水や生活排水の流入ですが、背景には、社会システムや生活スタイルが変化するなかで、八郎湖が、流域に暮らす人々にとって「地理的には近くにあるにもかかわらず、精神的に遠い存在になってしまったこと」が挙げられると考えています。

このため秋田地域振興局では、八郎湖の水質改善に「住民参加」という視点を加え、「住民自身が、排出の発生抑制、水質改善、流域の再生に参加することにより、八郎湖の水質改善の突破口にしたい」という思いを持って、「環八郎湖・水の郷創出プロジェクト」を立ち上げました。

なお、「環八郎湖」とは、秋田地域振興局が提唱した造語であり、「八郎湖だけを切り離してとらえるのではなく、循環する水系という視点に立ちながら、産学官民の知恵と行動を結集し、八郎湖と流域の再生を果たしていこう」という願いを込めております。

このプロジェクトのグランドデザインとして特に重視される視点は、「プラットフォーム（協働の場）」という考え方です。「プラットフォーム」とは、「自分の価値観だけで判断せず、様々な違

いを受け入れながら、どのような調整ができるのかを考え、お互いの経験・技能・知恵・知識などをつないでいく場」であります。

地域には、素晴らしい人材がたくさんいますが、一人一人がバラバラでは、その活動は単発で限定的なものになります。「お互いが「足」を引っ張るのではなく、「手」を引っ張り合いながら、それぞれの活動を結び付ける」というのが、プロジェクトの基本となる考えとなっております。

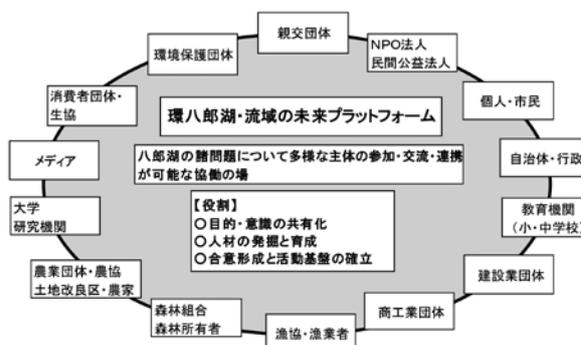
プロジェクトチームの取組が始まってから、住民の方々からも「もう一度、八郎湖に入ろう」、「水草を植えよう」、「上流には木を植えよう」、「松くい虫の被害木を木炭にすれば水質浄化に利用できるのではないか」、「ブラックバスを魚粉にすれば有機農業に活用できるのではないか」など、徐々に自らができることについての提案が出てきました。

こうした変化は、「遠い水」になってしまった八郎湖を再び「近い水」に戻し、同時に住民による排出の発生抑制や八郎湖の自然再生、地域の自立を目指す上でも大きな一歩であると考えております。

### プロジェクトのグランドデザイン ～“遠い水”から“近い水”へ～

八郎湖流域の抱える諸問題の解決に向け、多様な主体の参加・交流・連携が可能な協働の場(プラットフォーム)を形成し、対話や相互学習、交流を継続しながら、課題に応じた組織・活動の派生とネットワーク化を図り、産業や教育など地域の既存の社会システムに環境保全機能を組み込むことで、地域が主体的で自立的な活動の持続性を確保する。

### プロジェクトのグランドデザイン



### プラットフォームのイメージ

### 3. 「自然再生活動の促進」の取組

「環八郎湖・水の郷創出プロジェクト」を構成する柱について、まずは、1つ目の柱である「自然再生活動の促進」についてご紹介いたします。

秋田地域振興局では、「八郎湖流域で住民が主体となる活動を創出すること」をねらいに、「環八郎湖・水の郷創出プロジェクト助成事業」を平成17年度から実施しており、これまで10団体がこの助成金を活用して八郎湖流域の自然再生活動に取り組んでおります。ここでは助成事業により自然再生活動を実施している地域住民団体の主な活動事例をご紹介します。

「潟船保存会」では、「八郎湖の原風景を後世に」を合い言葉に、平成17年度から「湖岸への水草の植え付け」に取り組んでおり、多くの子どもたちや地域住民の方々を巻き込んだ住民主体の八郎湖再生活動のパイオニアとして活動を展開しております。その成果として、植生再生地点には、ヨシ、マコモ、ガマなどの水草がしっかりと根付いてきました。今年度の植え付け会では、アサザが黄色い花を咲かせていることが確認され、会員の皆さんも感激しておられました。水草は、小さな魚にとっての休息場、隠れ場、エサ場、産卵場となります。植生再生地点は、八郎湖全体と比較すると小さな区域ではありますが、こうした取組は、八郎湖の生態系を復活させるための大きな一歩であると考えます。潟船保存会の取組は、国からも高い評価を受けており、平成21年度に「地域づくり総務大臣表彰」を受賞しております。

「NPO法人秋田水生生物保全協会（秋田淡水魚研究会が平成24年度にNPO法人化して設立）」では、在来魚が持続的に存続できる環境を維持させたいという理念のもと、平成17年度から「八郎湖や流域河川での外来魚駆除」に取り組んでいるほか、平成24年度からは、「八郎湖の豊かな恵みである在来魚を子どもたちや地域住民に味わってもらうイベント」を開催しております。八郎湖の漁業者や佃煮業者は、後継者不足が深刻な問題となっておりますが、「漁獲量の減少」「漁業者の減少」「消費者の減少」という大きな課題に向き合ったこうした取組は、豊かな八郎湖を未来に残していく上で非常に重要なものと考えております。また、「NPO法人秋田水生生物保全協会」は、民間企業からの助成金の獲得に対しても積極的であり、他の団体のモデルとなる取組となっております。

す。なお、前身団体である「秋田淡水魚研究会」は、平成24年度に自然環境功労者環境大臣表彰を受賞いたしました。

「草木谷を守る会」では、石川理紀之助翁が貧農生活を実践した草木谷の田んぼを使った米づくりの活動である「田んぼの学校」に平成19年度から取り組んでおります。「田んぼの学校」とは、大豊小学校5年生が環境学習の一環で米づくりを体験する取組であり、田植え・草刈り・稲刈り・脱穀・収穫祭などを行い、収穫した米で餅つきをしたり、地域の老人ホームに収穫米を贈呈したりしております。また、「草木谷を守る会」では、この他にも、地域住民を巻き込んで、無農薬・有機肥料の酒米づくりを行い、地域の酒造業者の協力のもと純米吟醸酒を製造販売するなど、自主財源による取組も積極的に行っております。「草木谷を守る会」の特にすばらしい点として、他の団体や企業と積極的に連携して事業を展開し、一般の参加者も多く集まっていることが挙げられます。こうした点を、他の団体にも広げていくことが今後のプロジェクトの課題であると考えております。

「八郎湖環境保全の会」では、八郎湖の水をきれいにし、地域の環境保全に貢献したいという理念のもと、「ヨシの刈り取りによる水質浄化、刈り取ったヨシの活用（堆肥づくり、小物づくり）」等に取り組んでおります。ヨシは湖内の窒素やリンなどの栄養を吸収するため、八郎湖の富栄養化を防ぐ役割を果たしていますが、枯れて土壌に戻ると、せっかく吸収した窒素やリンは、湖内に戻ってしまいます。加えて、ヨシが生い茂って湖面が見えなくなると、地域住民の水をきれいにしようという気持ちが薄れてしまいます。このため、定期的な伐採による管理が水質浄化には重要であります。「八郎湖環境保全の会」は平成24年度に設立された新しい団体ですが、積極的な環境保全活動を展開されており、秋田地域振興局としても今後大いに期待しております。

今回は、4団体についてご紹介しましたが、八郎湖流域で環境活動を行っている住民団体は20団体以上あり、それぞれが内容を工夫し、地域住民が直接参加できるイベントを数多く開催しております。住民が主体となった活動がこれほど多くあるというのは、八郎湖の大きな強みであると思っております。

#### 4. 「環境教育などによる未来の人・地域づくり」の取組

次に、プロジェクトのもう一つの柱である環境教育の取組についてご紹介いたします。環境教育については、「NPO法人はちろうプロジェクト」が中心となって、流域の小学校への出前授業を行っております。認定NPO法人アサザ基金や秋田県立大学などの外部講師の協力を得ながら実施しているこの出前授業は、これまでの受講者数が延べ12千人を超えており、初期に授業を受けた児童の中には、この授業がきっかけで八郎湖に興味を持ち、秋田県立大学に入学して八郎湖の研究に取り組んでいる学生もおります。また、毎年夏休みには八郎湖こども交流会を開催しておりますが、今年度参加した小学4年生の女の子は、ミジンコにたいへん興味を持ち、将来は秋田県立大学でミジンコの研究をしたいという夢ができたと話しておりました。

次代を担う子どもたちへの意識付けは、八郎湖の将来を左右する重要な課題ではありますが、こうした成果を見ると、これまでの取組は着実に実を結んできているものと感じております。

#### 5. 「多様な主体との協働とネットワーク化」の取組

プロジェクトの3つめの柱であります「多様な主体との協働とネットワーク化」については、これまで、ブラックバスの魚粉肥料による野菜生産や、ドキュメンタリー映画の製作協力などを行っているほか、環八郎湖市民ネットワーク等による情報交換会などが定期的に行われております。

しかしながら、企業との協働などについては、最近では主立った事例がなく、今後の方向性を試行錯誤しているところでもあります。

先に述べましたが、プロジェクトのグランドデザインの根幹をなす「プラットフォーム」は、行政、住民団体、教育機関、研究機関、民間企業などの多様な主体が参加・交流・連携できるような協働の場であり、多様な主体がそれぞれの強みを活かして協働することにより、持続性のある活動が展開できるものと考えており、秋田地域振興局としても特に力を入れる必要があるところでもあります。民間企業等の理解と協力を得ることは、一朝一夕にはいかない課題ではありますが、しっかりと腰を据えて取り組んでまいります。

#### 6. 八郎湖流域の地域住民団体の強みと課題

秋田地域振興局では、今年度、国の雇用事業を活用して、「八郎湖流域活動支援スタッフ」を配置し、地域住民団体の活動への支援や聞き取り調査などを実施しております。ここでは、今後の取組の参考とするため、八郎湖流域活動支援スタッフが今年度の活動を通して感じた「地域住民団体の強みと課題」について、述べさせていただきます。

「強み」として挙げられる点は、以下の5点であります。1つ目は「八郎湖流域には多くの団体が存在し、開催しているイベントの数も多いこと」、2つ目は「開催したイベントの多くが新聞等の記事になっており、マスコミの注目度が高いこと」、3つ目は「秋田県立大学が近くにあり、八郎湖に関心の強い学生や教職員がいること」、4つ目は「かつて小学校で八郎湖の出前授業を受講した子どもたちが、大学生になっていること」、5つ目は「団体間の話し合いの場である「環八郎湖市民ネットワーク」や、行政の話し合いの場である「八郎湖水質対策連絡協議会」があること」であります。

一方で、「課題」としては、多くの団体が、「会員の高齢化、後継者不足、資金不足」という共通の悩みを抱えておりました。八郎湖流域における環境保全活動を今後も持続的に進めていくためには、活動の認知度を高めて、協力者を増やしていくことや、各団体が各々の特長を活かして、活動を連携させることが重要であると考えます。そのためには、活動全体をコーディネートできる人材や組織をみんなで育てていくことが必要です。

「課題」を解決するのは簡単ではありませんが、秋田地域振興局としては、先に挙げた「強み」を活かしながら、サポートを続け、一歩ずつ前進していくことが大切であると考えております。

#### 7. 平成26年度の実施方針案

最後に、「環八郎湖・水の郷創出プロジェクト」における来年度の秋田地域振興局の取組についてご紹介いたします。内容については、執筆時点では、予算議決前ですので、変更となる可能性もあることをご了承ください。

課題としては、前述のとおり、「人員不足、資金不足、後継者不足、企業との連携や団体間の連携の不足、地域による意識の温度差」などが上げ

られますが、こうした課題に対応するため、秋田地域振興局では、来年度の取組として、「住民団体の八郎湖流域の環境保全活動への助成」、「企業のCSR活動との連携」、「八郎湖流域の小中学校への環境学習の出前授業」、「秋田県立大学と連携したこども交流会の実施」を計画しております。

「八郎湖の環境保全活動への助成」については、「環八郎湖・水の郷創出プロジェクト助成事業」として、「八郎湖流域を活動の拠点とし、八郎湖の自然再生を目指して自然再生活動を行う団体を対象に活動経費を助成するもの」であり、1団体あたり5万円～30万円を目安に、5団体程度への支援を予定しております。予算に限りがありますので、手を上げたい取組がございましたら、早めにご相談いただければと思います。

「出前授業」については、これまで八郎湖の環境学習にあまり熱心でなかった上流域の学校に対しても裾野を広げていくため、導入部分の敷居の低い学習教材の活用（後述）や、教員を対象とした出前授業なども積極的に展開したいと考えております。

「こども交流会」については、さきほど小学4年生の女の子のエピソードを紹介しましたが、今年度は「八郎湖復活のカギを握るのはミジンコだ」をテーマに、「八郎湖でアオコを採取、待入堤でミジンコを採取して、秋田県立大学に行って高性能の顕微鏡で観察する」という内容で実施しており、参加した子どもたちから、大変好評を得ております。学校の枠を超えて交流し、楽しみながら八郎湖を学ぶことは、子どもたちへの意識付けの効果が大きいため、来年度も県立大学と連携し、こうした取組を磨き上げてまいりたいと考えております。

また、来年度は、新たな事業といたしまして、国の緊急事業を活用して、2名の職員を1年間雇用し、八郎湖流域の住民団体の体制強化を図ることを計画しております。

この事業では、八郎湖に特化した環境学習教材の作成、イベント時の広報や団体間の連携を高めるためのフォロー、大学生と団体との連携体制の構築、アオコ対策のサポートなどの業務を行うことを予定しております。

特に大学生との連携については、住民団体の活動の活性化やモチベーションの向上を図る上でも非常に重要と認識しており、力を入れて参りたい

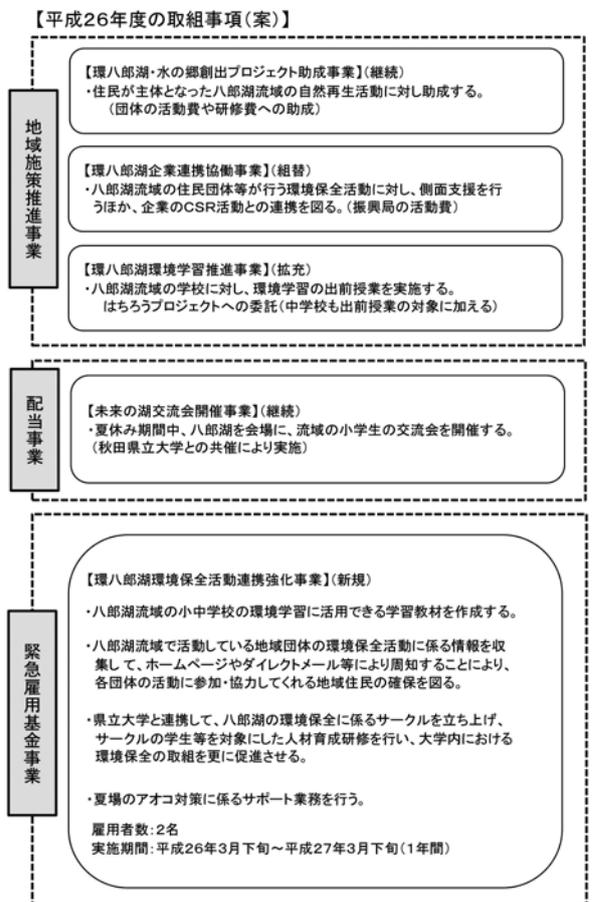
と考えております。

また、環境学習教材の作成については、上流域の小中学校なども出前授業で活用できるようなプログラムや、大学生が講師として参画できるようなプログラムを作りたいと考えております。

これらの取組は、直接的に八郎湖の水質を劇的に浄化させるものではありませんが、地域住民が八郎湖を身近な存在に感じることによって「水を汚さないようにしよう」という意識を持つことは極めて重要であります。

秋田地域振興局では、「みんながつながって八郎湖の自然再生に取り組める場づくり」を進めることにより、八郎湖が「遠いみずうみ」から「近いみずうみ」となることを目標に、八郎湖環境対策室の行うハード事業と両輪となって事業を展開してまいります。

「環八郎湖・水の郷創出プロジェクト」も今年で10年を迎えました。次の10年をより充実したものと、八郎湖の再生に向けて前進するため、地域住民団体や関係機関の皆様方からのご意見やアイデアも積極的に活かしてまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。



## 八郎湖流域の地域住民団体の主な環境保全活動の状況(一覧)

分野	団体名	所在地	主な活動内容
環境保全活動系	潟船保存会	潟上市 昭和	“八郎湖の原風景を後世に”を合い言葉に、八郎湖岸に水草の植付けを行っているほか、潟船・漁撈用具などを収集・保存して郷土の文化を継承している。
	NPO法人秋田水生生物保全協会 (旧:秋田淡水魚研究会)	秋田市	八郎湖や流域河川においてブラックバス駆除やブラックバスの稚魚すくい、潟の魚を食す会などを行っている。H24年度からは2年続けてトヨタ自動車在全国的に展開している“TOYOTAアクアソーシャルフェス”の秋田県イベントとして実施。
	八郎湖環境保全の会	潟上市 天王	水質改善を目指した“ヨシ刈り”と“水質調査”、さらにはヨシを使った堆肥作りや小物作りなどを行っている。
	大潟の自然を愛する会	大潟村	大潟村の人工的な自然に棲み着いた野鳥の保護・調査を中心とした活動を継続的に行っている。
	環境サークルたんぼぼ	大潟村	きれいな八郎湖を次世代につなげることを目的に、水質、生態系などの環境問題などをテーマに勉強会を開催している。 ブラックバスパーガー発祥団体。
	男鹿磯浜を守る会	男鹿市	磯浜の調査に長年携わった経験から、八郎湖の水が流されたときの磯浜や小魚の様子、水質改善の大切さを後世に伝えている。
	EMサークルみたね	三種町	EM菌を活用した堆肥作りから無農薬野菜の栽培等を行っている。EM菌による水質改善を試みたいとのこと。
環境学習系	NPO法人はちろうプロジェクト	潟上市 飯田川	八郎湖流域の小学生に対する八郎湖の環境学習、潟上市からの委託による「漁撈具の調査」、「石川理紀之助検定業務」を行っている。 「環八郎湖市民ネットワーク」(八郎湖流域の団体の情報共有の場)の事務局を担っている。
	草木谷を守る会	潟上市 昭和	八郎湖の上流部に位置する耕作放棄地を復元した“草木谷”において、小学生を対象とした“餅米栽培”、一般人を対象とした“酒米栽培”、“ホタル観賞会”など様々な活動を行っている。
	コガムシの会	大潟村	八郎湖に優しい有機農法実践田において「たんぼの生き物観察会」を実施している。
	白神山水会	大潟村	大潟村の農業排水への関心から、いち早く有機農業を実践し、「白神山水の水を飲む会」を定期的に開催。 水質に関心を持つための取り組みを行っている。
商品販売系	廃油リサイクルの会「八郎湖」	大潟村	廃油石けんの普及を通して、間接的に八郎湖の水質改善に繋がっている。
	木炭水質浄化研究会	大潟村	炭を焼き、大潟村内の中央幹線排水路において炭による水質浄化実験を行っている。
	ポルダ－大潟野菜グループ	大潟村	駆除したブラックバスを堆肥化し、野菜作り等に活用している。 道の駅おおがたの直売所で野菜の販売を行っている。
	井川町生活研究グループ協議会	井川町	EM菌ぼかしによる生活排水の改善を行っている。 休耕田を活用したそば作りを行っており、手打ちそばや野菜等の直売所として“じまんこ亭”を運営している。
	男鹿半島案内ボランティアの会	男鹿市	EM菌を活用した“EM石けん”作りを普及している。浜口小の児童達とEM石けんを使ったプール清掃を行った。
まちづくり系	三種町グリーンツーリズム推進協議会	三種町	今年度、振興局の助成事業を活用し、八郎湖での冬期間のワカサギ釣りイベントを実施予定。
	エコトピア湖東	五城目町	“環境”、“エネルギー”をテーマに、五城目を中心としたまちづくりを考えている。県の緊急雇用事業による調査研究、シンポジウムやフォーラムへの協力などを行っている。
	異業種交流会クライン	八郎潟町	「自分たちで楽しみつつ、地域を巻き込んでいく」ことをモットーとして、にぎわいづくりのイベント等を行っている。
	遊学舎NPO活動支援室	秋田市	秋田県内で行われている市民活動の中間支援を行っている。
その他	ECOネット市民フォーラム	潟上市 天王	「八郎湖環境保全の会」の親団体として、共に活動している。
	秋田県森の案内人協議会	秋田市 雄和	森林環境の保全に関する活動を、全県的に行っている。

八郎湖流域の地域住民団体の主な環境保全活動の状況（写真）



潟船保存会「水草の植え付け会」



アサザの花が咲きました



NPO法人秋田水生生物保全協会「外来魚駆除」



ブラックバスバーガー



わかさぎの佃煮



草木谷を守る会「田んぼの学校」



潟上市へのもち米の贈呈



八郎湖環境保全の会「ヨシ刈りとヨシを使った堆肥作り」



堆肥づくり